

平成25年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

校訓である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人ひとりが生徒相互ならびに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神に沿った社会の第一線で活躍し得る人材の育成を目指す。

2 学校経営ビジョン

①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
 ②生徒一人ひとりの学力・人間力を伸ばし、全ての生徒の進路実現を可能にする学校づくりを目指す。
 ③部活動の奨励および充実を図り、全国大会への出場を目指す学校づくりを目指す。
 ④基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりを持った心豊かな人間形成を目指す。

3 本年度の重点目標

2万人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承し、本校生徒の育成のために、「創造」「躍動」「貢献」の校訓を日々実践し、「忠恕の心」を持ち、「前へ 更に一歩前へ今の自分を、より成長させるための努力を～」をスローガンに、特に次の7点を重点目標に掲げる。
 ①生徒との信頼を充実させ、基本的な生活習慣の定着及び目的意識の醸成を行なう。
 ②気持ちの良い挨拶・礼儀、正しい制服の着用により、愛校心の育成(帰属意識および自己肯定感の高揚)を行なう。
 ③教材研究の充実を基に魅力ある授業の実施で、授業及び家庭学習に目を向けさせ、基礎・基本の定着と学力向上を図る。また、より高度な資格取得を目指す。
 ④部活動加入率の増加および部活動指導力の向上により更なる部活動の充実・発展を図る。
 ⑤学校行事、生徒会活動、学級活動の更なる活性化により、人間力の向上を図る。
 ⑥教職員一人ひとりが自分の役割を果たすと共に、学年間・分掌間との相互協力・連携の中で組織としての校務運営を目指す。
 ⑦自己目標システムの導入により教職員の資質向上を図る。

4 前年度の成果と課題

生徒会を中心とした生徒の意識向上により落ち着いた雰囲気で学校行事・全校集会等が開催できた。また、プロジェクト委員会により学校活性化の気運が高まった。マナトレの定着に伴い、積極的な授業参加・家庭学習の習慣化など学習意欲向上及び進路意識の向上が望まれる。また、遅刻・欠席や問題行動及び転退学者が減少するための対策が急務である。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方法	評価	成果と課題	
学校経営方針		・本年度の重点目標を周知させることができたか。 ・本年度の重点目標への取り組みを生徒・保護者が高く評価したか。	・重点目標を知っている保護者の割合を80%以上にする。 ・重点目標の取り組みについて「非常に良い」「良い」と思う生徒・保護者の割合を80%以上にする。	・職員会議、全校集会等で説明する。 ・広報誌やホームページ、振興会等を利用して周知させる。 ・ホームページの更新を積極的に行なう。	B	重点目標の取り組みについては「まずまず」まで入れれば90%を超えたが、「非常に良い」「良い」割合は目標を「下回った」。ホームページの更新については前半はかなり積極的に行なったが、後半については思ったところがあった。	
		・中学生のニーズに合った進路情報をタイムリーに提供できたか。 ・中学校や進路塾との信頼関係を強化できたか。	・各種説明会やHP・広報資料を見直す。 ・「出前講座」や「学び直し」教材を提供する。 ・中学校や進路塾との信頼関係を強化できたか。	・プロジェクト委員会を積極的を検討する。 ・中学校現場の進路情報を募集に活用する。	B	・プロジェクト委員会での検討が不十分であった。 ・情報提供や出前講座で中学校との一定の信頼は得られた。	
学校運営	学校事務	学校の管理運営費を教育水準と等とせずに節約できたか。	光熱費の削減に今後とも取り組む。	省エネに努めると共にエコ工場の省エネタイプへの切り替えを検討し、予算の許す範囲で実施していく。	B	平成25年度は学校法人全体のプライオリティの観点で中学校のエコへの切り替えを検討し、予算の許す範囲で実施していく。	
		・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・教育センターの講座、特に不登校・引きこもり・いじめ問題・発達障害等の専門研修、教育相談の研修等を3年間で1回以上は受講する。 ・生徒が充実感を味わえるような授業を展開し、授業改善アンケートの評価を参考に研鑽に努める。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。教育センターの研修講座に15名以上参加する。 ・各教科での授業研究会を開催する。 ・職員相互の授業参観を活性化し、授業の質を向上させる。	B	教育センターの研修講座への参加や授業参観に関しては計画通り実施できたが、職員相互の活性化や質の向上については今後の課題である。職員研修については全職員に「体罰にたらない教育」「学級経営と規律の確立」等を実施した。	
学力向上		・基礎学力の向上が図られたか。 ・進路を履修した学力が定着したか。	・基礎学力の向上を図る。 ・進路・就職に対応できる学力の定着を目指す。	・学び直しを強化する。 ・マナトレを有効に活用する。 ・家庭学習を充実させる。	B	学び直しを強化することはできたものの家庭学習が十分とはいえない。	
		・進路意識が向上したか。 ・進路希望の実現ができたか。	・個人の能力・適性に合った進路指導を行い進路意識の向上を図る。 ・国公立大学合格者数10名以上を達成する。 ・短期大学への現役合格者を出す。 ・志望校に100%を達成する。 ・高大連携を確立させる。	・面談、ガイダンス等で能力・適性を把握し進路意識を向上させる。 ・家庭学習、個別指導の強化を図る。 ・面接、小論文指導を充実させる。 ・研修等で受験指導力を高める。 ・新規企業開拓企業訪問を強化する。 ・山口県立理科大学との交流を深め、進学者を増やす。	B	進路意識の向上は、少しずつ図られてきた。1・2年生の進路指導への相談は年々増えている。反面、それを実現するために必要な基礎学力の向上に向けての家庭学習の充実はまだ未だである。面接・小論文指導は例年同様であった。国公立大学の合格者が目標の10名に届かず5名となってしまったのは、残念な結果であった。大学合格者数、就職内定者数はなんとか確保できた。大きな課題は、欠席者の多い生徒に対する進路指導の仕方と欠席をしない生徒に育てることと成績高部等の受験基礎力の定着と成績向上の二つと考える。	
教育活動	生徒指導	・基本的な生活習慣が身に付いたか。 ・服装の整美ができたか。 ・マナーの向上を図ることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。	・遅刻・欠席を減らす。 ・女子のスカート曲げを減らす。 ・あいさつを励行させ、品位品格を身につけさせる。 ・自転車の傘さし運転を減らし、施設100%を目指す。	・学年と連携し遅刻指導を強化する。 ・職員全体でスカート曲げに対して注意を促す。 ・マナー指導や礼法の授業を通して、マナーアップを目指す。 ・自転車にはカッパを購入させ、月に1回点検の確認をする。	B	遅刻指導において各学年との連携はスムーズであったが、遅刻の数は昨年と変わらず、基本的な生活習慣が確立されていない生徒が多かった。	
		・教室の学習環境が整備されているか。 ・自主的に清掃活動が行なえたか。 ・ゴミの分別収集、軽量化ができたか。 ・学校周辺の美化に貢献できたか。	・清掃のいきとどいた状態にする。 ・自主的に清掃活動を行なう意識を高める。 ・地球規模の環境を意識させ、地域の環境美化に貢献する。	・校内美化環境を整える。 ・ゴミの分別を徹底し、軽量化に取り組み、グローバルエコの意識を高める。 ・面談・家庭訪問を実施し、地域の美化に努め住民の理解を得る。	B	学校周辺清掃を3回実施し、地域の美化に協力した。校内の清掃活動は向上していた。	
課外活動		・仲間と相互に切磋琢磨を通じて、友情や絆を、自己表現力や強い精神力を磨けたか。 ・かけがえのない喜びを得ることができたか。	・加入率70%を目標に、担任、顧問連携を密にし、クラブの部員数を増やすとともに、中途退部者をなくす。 ・各大会において優勝を目指し、上位進出を果たす。	・クラブ紹介や勧誘方法を工夫し、文化・商業系のクラブ活動の普及を図る。 ・文武のバランスを考え部活動の質を高める工夫を図る。	B	顧問の指導の下、各部活発な活動を展開しているが、全体的な成績は一部の不振。新人戦を好成績でスタートした部は、他の部活動の牽引力となるような活躍が期待される。	
		長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	担任、学年主任、教育相談室、スクールカウンセラーのチーム体制で生徒・保護者に対応できたか。	教育相談室に登校できることをステップとし、学校に近づけ教育相談室に入れるよう努力させる。学習指導の充実により生徒に自信をつけさせる。	・スクールカウンセラーや担任・学年主任と連携し、本人に働きかける。 ・面談・家庭訪問などを継続して行い、生徒・保護者との繋がりを絶えないようにする。	B	チーム体制での対応ができた。今後、教育相談室内の充実を図りたい。
特定課題	生徒会活動	礼法教育	礼法を通して心豊かな社会人となる資質を身につけたか。	豊かな人間関係を築くために必要なマナーを実践できるようにする。	良好な人間関係を構築するための礼法教育の研究と指導法の充実を図る。	B	「形から入って心に至る」ことが表現できなかった。
		自分たちの身近な問題を考え、自発的な活動を展開することができたか。	・学級活動や委員会活動をより活発に行い、学園祭を実施し、成功の喜びを全校で共有する。	・トップダウンまたはボトムアップを機軸とし、関係分掌と執行部、各委員会、学級との連携を密にし、共に活動が推進されるようにする。	B	初めての試みであったが、企画準備に議論を重ね、第1回学園祭を成功裏に終えることができた。より充実した内容とするべく、行事を通して得たものを今後活かすことが課題である。	
キャリア教育・マナトレ		・マナトレを通じて、基礎学力が向上したか。学力到達ゾーンはアップしたか。 ・キャリアノートの活用が進捗保障とコラボしているか。 ・インターンシップが職業観・勤労観のスキルアップに繋がっているか。 ・小論文指導、面接指導、キャリアガイダンスが自己啓発になっているか。	・マナトレ認定テストの基礎編、標準編を全員クリアさせる。 ・基礎力診断テストにおけるGTZをD1からC以上のレベルにする。 ・3年間を見通したキャリア教育を浸透させる。	・マナトレの終了テストの結果検証によりレベルアップを図る。 ・マナトレの認定テストおよび、基礎力診断テストの「結果共有会」を実施する。 ・インターンシップの事前、事後指導を深化させる。 ・キャリアノートの活用を進捗保障および、キャリア教育にリンクさせる。	B	キャリア教育 キャリア教育講演会を1、2学年の生徒に行なった。また、キャリアノートの活用により、将来の自分の姿を考えた学校生活を送っている。 マナトレ推進 マナトレの実施により基礎学力の定着が定着つつある。	

6 総合評価

評価はB。重点目標に従いそれぞれの領域で具体的な方法を持って取り組み、一定の成果はあったが、満足できる結果とは言いえない。中でも、自己肯定感をもち、愛校心を持つ生徒の育成は課題を残した。しかし、学校行事は第1回学園祭の成功をはじめ生徒会執行部により学校の活性化ができていた。進路保障についても就職面では前年度以上の結果を出すことができた。更に専門性を活かした就職に繋げることが必要である。

7 次年度への課題・改善策

自分の学校に誇りをもち、学力及び人間力を向上させること、そしてその結果すべての生徒の進路保障に繋げていくことが本校の目標であり大きな課題である。そのためには、教師の話を素直に受け入れることができる生徒の内面への指導の充実が必要である。また、生徒が目的を持って学校生活をおくるためには、具体的にクラス目標に掲げること、有言実行で全職員が同じ方向で生徒の進路にあたらなければならない。そして、基本的な生活習慣や基本的な学習習慣の定着、遅刻・欠席の減少、引いては転退学者の減少につなげたい。